

## 令和5年度 学校評価 結果

松戸市立第三中学校

### 1 学校評価アンケート集計結果

【評価】 そう思う:4 ややそう思う:3 あまり思わない:2 そう思わない:1

	項 目	生徒	保護者	教職員
	※評価項目は令和5年度に新設したため、今年度の集計結果のみ記載		R5	R5
1	生徒は、楽しい学校生活を送っている。	3.5	3.3	3.4
2	生徒と教師のコミュニケーションがとれている。	3.4	3.1	3.4
3	学校は、わかりやすい授業に努め、生徒が意欲的に取り組む授業づくりをしている。	3.3	2.9	3.0
4	授業時間は適切に確保されている。	3.6	3.2	2.8
5	生徒は、授業の中で進んで課題に取り組んでいる。	3.3	3.0	2.2
6	生徒は、家庭学習の習慣が身についている。	2.8	2.5	3.3
7	学校は、生徒の安全・安心を考えている。	3.5	3.2	3.3
8	学校は、生徒同士のいじめや暴力について、適切に指導をしている。	3.3	2.9	3.2
9	学校は、生活のルールを守るために適切に指導している。	3.5	3.1	3.0
10	学校は、進路指導(上級学校や職業調査等のキャリア教育)が充実している。	3.3	2.8	3.1
11	生徒は、基本的な生活習慣(挨拶・時間・服装等)が身についている。	3.5	3.2	2.4
12	生徒は、善悪の判断を行い、行動することができている。	3.4	3.2	2.8
13	生徒は、行事や委員会・係活動・ボランティア活動などに積極的に参加している。	3.2	3.2	3.0
14	生徒にとって、部活動は充実した活動になっている。	3.3	3.2	3.3
15	生徒は、自分を「大切な存在、かけがえのない存在」だと思っている。	2.8	3.0	2.9
16	生徒会活動は、生徒の主体的な活動が工夫されている。	3.4	3.1	3.1
17	学校では、楽しく安心な給食が提供されている。	3.6	3.3	3.9
18	学校は、教育活動の内容等の情報を学校だよりや三中HPで適切に伝えている。	3.5	3.4	3.8
19	学校は、保護者・地域の方々と連携・協力して、学校づくりを進めている。	3.5	3.2	3.6
20	生徒は、自分の考えをしっかりと持ち、書いたり話したりする際に、わかりやすく伝えるように気をつけている。	3.4	2.9	2.7
	平均値	3.3	3.1	3.1

## 2 学校評価 評価結果（まとめ）

### (1) 学校運営に関して【評価項目1、2、7、17、18、19】

	評価項目	生徒	保護者	教職員
1	生徒は、楽しい学校生活を送っている。	3.5	3.3	3.4

【項目1 学校の楽しさ】については、概ね「学校生活満足度」は高いと判断できる。すべての評価者において3.3以上の評価を得られていることから、学習や行事など学校生活全般において一定の満足が得られていると考える。生徒・教職員に対して保護者評価が若干低くなっているため、生徒が学校での活動を家庭で生き生きと話すことができるよう充実した活動を目指していく。

	評価項目	生徒	保護者	教職員
2	生徒と教師のコミュニケーションがとれている。	3.4	3.1	3.4

【項目2 生徒と教師の関係】については、生徒・教職員の評価からは生徒と教師が良好な関係にあると推測できる。生徒・教職員の評価に対し、保護者の評価が低くなっていることについては、保護者が望む生徒への関わり方を考えていく必要がある。今後も全ての教職員が生徒理解を基盤とした積極的な生徒指導を行うことに努め、多くの職員が一人一人の生徒と関わるようにしていきたい。

	評価項目	生徒	保護者	教職員
7	学校は、生徒の安全・安心を考えている。	3.5	3.2	3.3

【項目7 安全・安心】については、すべての評価者について3.2以上の評価を得られていることから、学校への信頼度や教職員の安全管理意識は高まっている。施設管理も含め、安心・安全な学校であることは、学校経営上最も優先されるべきことである。来年度も引き続き信頼される学校運営を目指していく。

	評価項目	生徒	保護者	教職員
17	学校では、楽しく安心な給食が提供されている。	3.6	3.3	3.9

【項目17 楽しく安心な給食】については、すべての評価者において非常に高い評価を得られた。高い評価を得られていることから、給食の提供について一定の満足が得られていると考える。今年度より対面での会食も再開しているが、引き続き、楽しく安心・安全な給食の提供を目指して運営していきたい。

	評価項目	生徒	保護者	教職員
18	学校は、教育活動の内容等の情報を学校だよりや三中 HP で適切に伝えている。	3.5	3.4	3.8

【項目18 情報発信・開かれた学校】については、すべての評価者について3.4以上の評価を得られている。積極的な情報発信と個人情報保護の両面を意識しながら、これまでどおり活動を継続していく。

	評価項目	生徒	保護者	教職員
19	学校は、保護者・地域の方々々と連携・協力して、学校づくりを進めている。	3.5	3.2	3.6

【項目19 地域連携・地域参画】については、すべての評価者において高い評価を得られた。地域行事の再開によって地域との関わり合いが増えたことや、学校へのボランティア要望に対し積極的に参加し、実際に生徒が地域の一員として貢献できたことが要因であると考えられる。地域・家庭・学校の三者で生徒の成長を見守ることができるよう今後も連携を深めていきたい。

## (2) 学習指導に関して【評価項目3、4、5、6】

	評価項目	生徒	保護者	教職員
3	学校は、わかりやすい授業に努め、生徒が意欲的に取り組む授業づくりをしている。	3.3	2.9	3.0

【項目3 授業】については、生徒・教職員の評価は3.0以上の評価で、授業については概ね満足できている。教職員側は「主体的な学びのための授業の工夫」をテーマに教材研究をし、生徒が主体的に取り組めるような課題の提示やICT機器などを活用した授業づくりに努めている。生徒一人に一台タブレットが支給され普通教室で一斉に使用できるネット環境が実現している。各教科の実態に応じて、ノートやプリントなどの記述表現だけでなく、WordやPowerPoint等の課題提出により表現の手段が増え、記述を苦手としている生徒にも課題に向かう意欲を持てていると考える。

さらに教師主導型の授業形式だけではなく、生徒の主体的・自主的な活動や協働して問題解決に向かうような授業形式を今後も研修していく必要がある。授業参観も含め、生徒・保護者から「わかりやすい授業だった」と感じてもらえるように研修を重ねてく。

	評価項目	生徒	保護者	教職員
4	授業時間は適切に確保されている。	3.6	3.2	2.8

【項目4 授業時間】については、生徒・保護者において高い評価を得られた。教職員の評価が低くなっていることについては、学校行事や校外学習・宿泊を伴う学習等の準備期間の授業時間短縮に関わる課題だと考えられる。学校行事の充実と共に、学習内容の充実と適切な授業進度が保てるように、次年度の行事予定と授業時間を見直していきたい。

	評価項目	生徒	保護者	教職員
5	生徒は、授業の中で進んで課題に取り組んでいる。	3.3	3.0	2.2

【項目5 進んで課題に取り組んでいる】については、生徒・保護者において高い評価を得られた。教職員の評価が低くなっていることについては、各教科の単元の中で教師主導型の授業形式があることが一因だと考えられる。全ての単元で「主体的な学びのための授業の工夫」をすることは難しいが、授業の中で生徒が主体的に取り組めるような課題提示に改善点があると考え。今後も生徒が学びに向かう意欲や工夫を授業の中で示せるように研修を重ねていく。

	評価項目	生徒	保護者	教職員
6	生徒は、家庭学習の習慣が身についている。	2.8	2.5	3.3

【項目6 家庭学習】については、研究主任を中心に改善を図っている。授業や宿題で小さなステップ(小課題)を提示し、生徒の回答・提出に対して教職員側が適切に評価する一連の活動を繰り返すことで、生徒が次の学習に向かう意欲につながっていると考え。現行の学習指導要領では『学びに向かう力』が問われており、日常生活の中で自発的に問題発見や解決を繰り返すことが求められている。今後も学びに向かう意欲や工夫を学校側から示せるようにしたい。生徒ごとに課題に対する負担感が異なるため、一様に同じ課題を提示するのではなく、個別最適な家庭学習の形とは何かを検討し、学びに向かう意欲を持たせられるような課題の出し方の工夫が必要だと考える。

(3) 生徒指導に関して 【評価項目 8、9、11、12、15、20】

	評価項目	生徒	保護者	教職員
8	学校は、生徒同士のいじめや暴力について、適切に指導をしている。	3.3	2.9	3.2
9	学校は、生活のルールを守るために適切に指導している。	3.5	3.1	3.0

【項目 8 いじめへの対応】【項目 9 ルームを守るための指導】については、概ね良好な評価を得られた。いじめに対する対応については日常の観察を基本とし教育相談を定期的実施している。毎月実施の「学校生活アンケート」の結果を細かな指導につなげ、早期解決を図ることで安心・安全な学校環境を維持することが大切である。また、生徒指導に関わる問題に対しチームで取り組んでいる。1人の教職員の主観で指導するのではなく、多くの教職員の目が入ることで問題点の整理を迅速に行うことができ、早期対応、継続支援、解決が図れている。

ルールを守るための指導についても1人の教職員の主観で指導するのではなく、チームで粘り強く取り組んでいる。ルールを守ることは、集団生活を営む上で大切な要素である。

いじめやルールに対して、継続して丁寧な指導を行い、学校での指導内容を保護者に伝え、学校と家庭とが連携しながら生徒の人間関係づくりや規範意識を醸成できるよう支援していく。

	評価項目	生徒	保護者	教職員
11	生徒は、基本的な生活習慣(挨拶・時間・服装等)が身につけている。	3.5	3.2	2.4

【項目 11 基本的な生活習慣】については、生徒・保護者において高い評価を得られた。今年度から新しい標準服を採用し、多様性への配慮を行ったことや校則の抜本的な見直しを行い、生徒と共に考え柔軟に転換していった結果だと考える。生徒のTPOに合わせた服装への意識にはまだ課題があると考えられるため、多様性への配慮と並行して、社会性を養うという観点からも、時と場に応じた服装や態度については継続して指導していく。

	評価項目	生徒	保護者	教職員
12	生徒は、善悪の判断を行い、行動することができている。	3.4	3.2	2.8

【項目 12 善悪の判断】については、生徒・保護者において高い評価を得られた。学校では全体的に落ち着いた生活が送れている。今年度もSNSに関連したトラブルは起きているため、今後も生徒個々が善悪の判断を的確に行うことができるよう、家庭との連携も強化しながら指導を継続していく。

	評価項目	生徒	保護者	教職員
15	生徒は、自分を「大切な存在、かけがえのない存在」だと思っている。	2.8	3.0	2.9

【項目 15 生徒の自己肯定感】については、生徒の評価が他と比較すると低くなったが、教科連絡ノートや行事後の感想等を見ると、多くの生徒は自分が集団の中で与えられた役割を果たし、達成感を得ることができている。一方で現在の自分に満足しておらず、学校・学級の集団から認められていないと感じている生徒もいることから、「誰もが認められる集団」をつくるために全職員で指導していきたい。中学生という発達段階では自己肯定をすることが恥ずかしいと感じるという側面もあるが、生徒が自己肯定感を高められるような教育活動を検討し、ありのままの自分を「大切な存在だ」と思えるよう継続的に支援・指導していく。

	評価項目	生徒	保護者	教職員
20	生徒は、自分の考えをしっかりと持ち、書いたり話したりする際に、わかりやすく伝えるように気をつけている。	3.4	2.9	2.7

【項目 20 言語活用科の取り組み】については、松戸市の特別教科『言語活用科』を教育課程に

組み入れ「自分の意見をわかりやすく伝える力」「相手が伝えようとすることを理解する力」を身につける授業を行っている。言語活用科の学びを通して表現力・理解力の育成を図り、最終的には「将来、グローバルに活躍できる」ことを目指している。

言語活用科以外の教科でも、プレゼンテーション等を意識的に取り入れ、生徒が主体となって話す場面は昨年度以上に増えている。また、学校行事の際に生徒の言語活用能力を生かせるように意識したことが評価を高める結果となったと考えられる。

#### (4) 特別活動に関して 【評価項目10、13、14、16】

	評価項目	生徒	保護者	教職員
10	学校は、進路指導(上級学校や職業調査等のキャリア教育)が充実している。	3.3	2.8	3.1

【項目11 進路指導】については、生徒・教職員に比べて保護者の評価が低かった。要因としては、進路指導やキャリア教育へのニーズが高く、早期から具体的な進路指導(高校入試)についての取り組みを始めて欲しいという願いがあると捉えている。年間進路指導計画を再度見直して、生徒・保護者に対し必要な時期に必要な情報を提供し、不安を与えないような進路指導に努めていく。

	評価項目	生徒	保護者	教職員
13	生徒は、行事や委員会・係活動・ボランティア活動などに積極的に参加している。	3.2	3.2	3.0

【項目13 行事・ボランティア】については多くの生徒が行事・委員会活動に積極的に関わったことで高い評価を得ることができた。学校行事に関しては今年度の反省を生かしスクラップ&ビルドの視点を持って実施内容や日程の見直しをしていきたい。

	評価項目	生徒	保護者	教職員
14	生徒にとって、部活動は充実した活動になっている。	3.3	3.2	3.3

【項目14 部活動】については、すべての評価者において高い評価を得られた。部活動に対して概ね満足していると判断されるが、生徒や保護者によっては練習や指導について更なる期待や要望もあると捉えている。部活動は現在、全国的に地域移行が進められており過渡期にある。持続可能な学校運営という視点で考えると、現在の部活動の枠組みをそのまま継続することは、今後の社会では難しいと考える。本校では「龍房スポーツ文化クラブ」があり、将来的に総合型地域スポーツ文化クラブに発展できるように活動している最中であるが、教職員以外の指導者は不足している。

部活指導は教職員の超過勤務を生む要因の一つにもなっており、「教職員による部活動運営」も「龍房スポーツ文化クラブによる運営」も転換期に直面していると考えている。社会の動向を注視しながら、生徒の生涯にとって有効な手段、持続可能な部活動運営を学校として検討していく。

	評価項目	生徒	保護者	教職員
16	生徒会活動は、生徒の主体的な活動が工夫されている。	3.4	3.1	3.1

【項目16 生徒会活動】については、高い評価を得られた。委員会活動や生徒会行事では、生徒会役員が中心となり、全校委員長や中央委員等の上級生が、下級生をリードしながら確実に行われている。今後も新しい活動に挑戦したり、現行の企画を見直したり、生徒全体が満足するような活動を地道に行っていけるように指導していく。生徒会活動の形を見直しながら、縦や横のつながりを育み、リーダーシップを伸ばす機会としたい。

### 3 成果と課題（学校評価のまとめ）

学校評価の結果から、今年度、本校の学校教育活動の成果と課題は以下のようにまとめられる。

#### （1）成果（生徒・保護者・教職員の平均が3.3点以上の項目）

- ① 生徒は、楽しい学校生活を送っている。（3.4）
- ② 生徒と教師のコミュニケーションがとれている。（3.3）
- ⑦ 学校は、生徒の安全・安心を考えている。（3.3）
- ⑭ 生徒にとって、部活動は充実した活動になっている。（3.3）
- ⑰ 学校では、楽しく安心な給食が提供されている。（3.6）
- ⑱ 学校は、教育活動の内容等の情報を学校だよりや三中HPで適切に伝えている。（3.5）
- ⑲ 学校は、保護者・地域の方々と連携・協力して、学校づくりを進めている。（3.4）

#### （2）課題（生徒・保護者・教職員の平均が3.0点未満の項目）

- ⑤ 生徒は、授業の中で進んで課題に取り組んでいる。（2.8）
- ⑥ 生徒は、家庭学習の習慣が身についている。（2.9）
- ⑮ 生徒は、自分を「大切な存在、かけがえのない存在」だと思っている。（2.9）

#### （3）来年度に向けて

新型コロナウイルス感染症による長いトンネルを抜け、日常が戻りつつある。コロナ禍を経て世の中の価値観や中学生の価値観は大きく変わっている。時代の変化に伴い、子どもたちに求められる力も変わってきている。今年度より学校評価の評価項目を一新した。新たな価値の創造に向けて教育活動を評価していただくことで、来年度に生かしていく。

学校評価の結果から、学校全体では、生徒は仲間や教職員とコミュニケーションをとりながら、楽しく安全に学校生活を送っている生徒が多く、落ち着いた状況にあるといえる。

学力に関しては、学習指導要領が目指す資質・能力「知識・技能の習得」「思考力・判断力・表現力等の育成」「学びに向かう力・人間生の涵養」を育むことができるよう、授業改善と授業力向上に継続して取り組む。これまでの「基礎基本」の定着は継続し、「わかった」「できた」という達成感を得られるような活動をしていく。文部科学省からは学習を進める上での大きな柱「個別最適な学び」と「協働的な学び」が示されている。「指導の個別化」「学習の個性化」を図り、生徒一人一人の習熟度に合わせた目標設定や学習支援を行うことも重点を置きたい。そして生徒が学びに向かう意欲を授業の中で示せるように研修を重ねていく。また、家庭学習については、学習内容や提出方法等を再検討し、生徒が学び方を学び、自発的な学習意欲の喚起につながるような取り組みへと改善していきたい。

自己肯定感については、中学生の本分である学習をしっかりと支援し、自信につなげたい。学校行事・生徒会活動、部活動においては、他者との関わりを通して自己有用感や達成感、挑戦する意欲を持てるよう働きかけていく。発達段階もあり、自己肯定ができない時期もあるとは感じるが、小さなことでも成功体験をさせることで、ありのままの自分に自信を持てるよう継続的に支援・指導していく。

#### 〈最後に〉

今年度も、地域、保護者の多くの方々のご協力、ご支援に支えられ学校運営を行うことができました。心より感謝申し上げます。評価、ご意見を参考に、現在の状況に甘んずることなく、第三中学区の方々に愛され、誇りをもてる学校をつくり上げたいと思います。今後もよろしくお願いいたします。